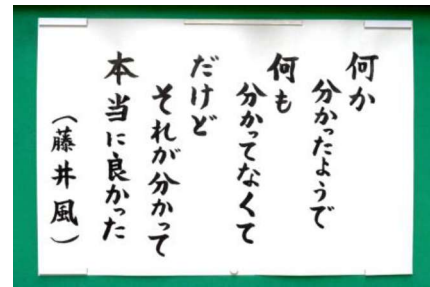
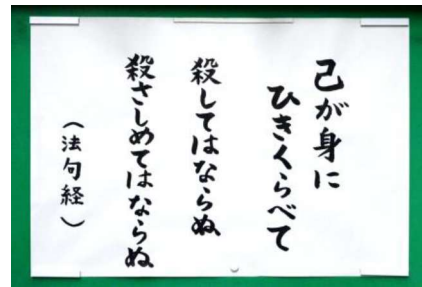


月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

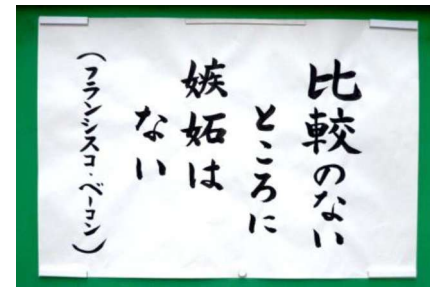
お寺の入り口の伝道掲示板に、その時々を掲げています。



2025年8月



2025年9月



2025年10月

令和7年の安楽寺報恩講について

安楽寺では毎年11月10日に親鸞聖人を偲びご恩に報謝する「報恩講」をお勤めします。報恩講は、例年のように芝組法中のご出仕で賑々しくお勤めします。今年はさらに、分かりやすく爽やかな語り口で評判のご講師をお迎えします。是非ともお参りください。

日時：11月10日(月) 午後2時～

お勤め：正信偈（住職＋芝組法中）

ご法話：南條 了瑛氏（中組 法重寺）

※お斎(お食事)のご用意はありません。ご了承ください。



令和7年 安楽寺総追悼法要のお知らせ

- ・ 来たる12月20日(土)の午後に、この1年にお亡くなりになった方を偲ぶ総追悼法要を行います。
- ・ 安楽寺にご縁のある方に声を掛けさせていただきます。
- ・ 該当される方には11月中旬頃に改めてご連絡いたします。



「定例法話会」の今後の予定（毎月第3日曜日午後2時～）

伝道掲示板の言葉をもとにお話させていただきます。いつでもご参加ください。

10月19日(日) 11月16日(日) 12月21日(日)

安楽寺だより 第64号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話:03-3451-1509 FAX:03-3798-2238

発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ <https://anraku-ji.org/>

（安楽寺だよりは1月・4月・7月・10月に発行します。）

逆転しない正義ってありますか？

暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったものです。お彼岸を過ぎ、ようやく過ごしやすくなりました。いかがお過ごしでしょうか。

今もウクライナやパレスチナで戦争が続きます。戦争はいつも「正義」を掲げて始まりますが、その多くは自国に都合のよい理由にすぎず、本当に正義なのか疑問です。

漫画家のやなせたかし氏は、戦時中には「国のために命をささげること」が正義とされ、戦後には「戦争は悪」と真逆に変わった体験から、本当の正義とは何かに悩まれたそうです。

私たちの生活においても、かつて正しいと信じられていた価値観が、時代とともに移り変わることを実感します。家長を頂点とする家の存続が重んじられたことや、男性が外で働き女性は家庭を守るとされた考え方も、今では別の価値観に取って代わられています。



では、時代や立場が変わっても逆転しない正義は、私たちにあるのでしょうか。

仏さまの救いは「逆転しない」という確かさをもっています。親鸞聖人は次のお言葉を残されました。

ただ念仏のみぞまことにておわします

私たちの想いや考えは、時や縁によって容易に変わります。しかし、「そのままのあなたを必ず救う」と誓われた本願、すなわち仏さまのまことの願いは決して逆転することなく、常にはたらき続けています。

《あれこれ抄》
▼秋の「安楽寺だより」をお届けします▼NHK朝ドラ「あんぱん」では「逆転しない正義」がテーマに掲げられていました▽「ほんとうに正義と言えるのはおなかをすかしている人、パンのひとつでも分けてやること」(やなせたかし氏)▽困っている人にそつと手を差し伸べる――そのシンプルさに正義の本質を感じます▼国語世論調査の結果が発表されSNSの広がりとともに言葉の意味や使い方が変わってきていることが示されました▽例示された中には自分も普段誤って使っていた語句があり思わずハッとさせられました(3頁参照)▼大谷翔平選手が自己最多の55本塁打▽期待やマークをもつ姿は天晴です記録を伸ばす姿は天晴です

秋彼岸にようこそお参りくださいました

秋のお彼岸は秋分の日(今年は9月23日)を中日とする一週間です。

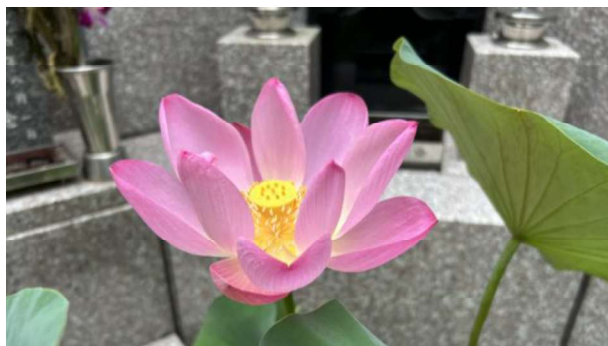
太陽が真東から昇り真西に沈むこの日は、西方極楽浄土に思いを寄せて、仏道に励み、亡き人を偲び、仏さまに感謝の心を伝えるのに最もふさわしい日とされています。



秋のお彼岸の頃、多くの方々がお墓参りに訪れ、色とりどりの花々が供えられた安楽寺墓地はひととき華やぎました。お中日には本堂で彼岸会法要をお勤めし、正信偈を読誦しました。

秋彼岸にようこそお参りくださいました。

《季節の思い出》



あんのん墓前のハス(8月)



ヤブラン(10月)



墓地に咲く彼岸花(10月)



ある日の東京タワーのライトアップ(9月)



《番外編》

大学時代の友人の勧めで居合道を体験しました(8月)

住職コラム

安心して悩むことのできる社会を目指して

仏教には「一切皆苦」という教えがあります。私たちの人生は思い通りにならないことの連続で、誰しも苦しみや悩みを抱えて生きているという真理を示します。悩みを持つことは人間として当然のことであり、むしろ悩みを避けて生きることはできないのだと教えられます。

しかし、「弱音を吐いてはいけない」「人に迷惑をかけてはいけない」という考えがしみつき、自分の気持ちを抑え込んでしまうことさえあるように思います。悩みや弱音を素直に表現することは容易ではありません。

仏さまの眼から見れば、悩み苦しむことは恥ずかしいことではなく、むしろ人間本来の姿です。だからこそ、互いにその弱さを認め合い、「悩んでもいいのだ」と許し合える社会を築くことが大切なのだと思います。

安楽寺では「悩みごとお寺で聴きます」と掲示しています。一人で悩んでいると答えはなかなか見えてきませんが、お話を聴きし一緒に考える中で道筋を見つけられることもあるかと思ひます。周りの人にも、ぜひお伝えください。

知っていましたか？

「国語世論調査」の結果について

毎年実施される「国語世論調査」(文化庁)には、本来の意味とされてきたものと異なる回答の多かった語句が例示されていました。一部をご紹介します。

<問16>「どちらの意味だと思いますか？」の語句と回答結果(青字が本来の意味)にやける(例:彼はいつもにやけている)

◎ なよなよとしている 10.5%

薄笑いを浮かべている 81.9%

役不足(例:彼には役不足の仕事だ)

役目が重すぎる 48.9%

◎ 役目が軽すぎる 45.1%

潮時(例:そろそろ潮時だ)

◎ ちょうどいい時期 41.9%

ものごとの終わり 46.7%



スズムシ&ヴィオラコンサート♪



安楽寺では長年スズムシを飼育しており、8月中旬から美しい音色を響かせ始めます。この時期ならではの催しとして今年も「スズムシ&ヴィオラコンサート」を開催しました。ヴィオラの調べが本堂に満ちる中、誘われるようにスズムシが美しい鳴き声を聞かせてくれて素敵な共演となりました。